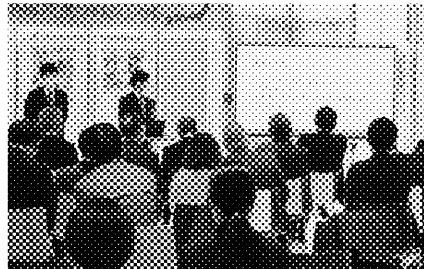


関西電子（東京都大田区、進工国広社長）が明治大学、千葉商科大学と取り組んできた極細繊維「ナノファイバー」の商品化プロジェクトについて、学生による商品案が出そろった。高い保温性や保水性といった特性を生かし、ペットボトルのカバーやスポンジパフ、栽培ポットなどの商品が提案された。

関西電子のナノファイバー量産装置を使い、新しい商品を考える産学連携プロジェクトで、城南信用金庫

極細繊維 商品化に挑む



（東京都品川区）を事務局とする全国信金の連携組織が橋渡しした。8月から両大学合わせて約20人が参加。学生たちは関西電子の工場見学や学内

産学連携 関西電子がプロジェクト

でのマーケティング講習をへて、商品案を考えた。発表会（写真）で明治大の学生がサウナハットの提案すると、関西電子の役員からは「抗菌性の素材と混ぜるなどすれば、商品としての可能性はあるのではないか」と応じた。発表会でプロジェクトは終了したが「願わくば商品化できないか、学内で協議したい」（明治大商学部・小川智由教授）と継続を検討する。